

フェリーについて

5102 H.S

1 テーマ設定の理由

ぼくは以前フェリーに乗ったことがあります。景色がよく、風も気持ちよく、カモメにエサをあげる体験もできてうれしかったです。そして、大島がきれいだったから、くわしく調べたくなりました。

調べるのは難しかったです。お母さんやお父さんが仕事で忙しく、なかなかフェリー乗り場につれて行ってもらえなかったからです。その中、お母さんに協力をもらい調べる事ができました。

実際にフェリーに乗りました。いつ乗っても気持ちいいです。ぼくには、このテーマがあつてるにちがいありません。ぜったいフェリーに乗りながらこのテーマは調べようと意志を強くもて、このテーマを調べることにしました。

2 研究内容

(1)フェリーは何トンか

フェリーの重さは106トンです。人の体重と比べてもかきません。ということでフェリーの重さは106トンです。



(2)フェリーで働いている人は何人か

キップ売り場の人に「4人です。」といわれた時はびっくりしました。なぜかというので、でっかい船なのにたった4人だったからです。ぼくは、だいたい10人くらいだと思いました。

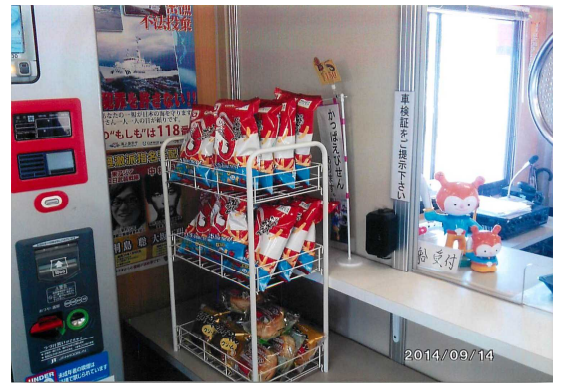


(3)フェリーに乗って楽しいこと

それは、カモメにえさおあげられることです。

たとえば、キップ売り場にあるかっぱえびせんをカモメにあげると食べてくれます。ついでにかっぱえびせんは1ふくろ150円です。

でも、たまたま食べてくれないときがあります。[でっかいの]です



(4) 車でも乗れること

フェリーには秘密があります。それは車でも船に乗れることです。もしも仕事のために大島から気仙沼に来る時、わざわざ徒歩で行かなくても車のまま乗れるからだいじょうぶです。フェリーで気仙沼から大島までかかる時間は、25分です。



(5) 大島には自然がいっぱい

大島は自然がいっぱいです。都会とはおちがいです。都会は木などが無いけど、大島は木がいっぱいあります。海もきれいです。震災後、小田浜海水浴場は宮城県で唯一海水浴のできる海です。

右の写真は、たまたまやってた祭りです。祭りの名前は聞けませんでした。屋台はありませんでした。



3 今後の課題

最近地震が多くなっています。津浪がきたら流されてしまわないかと、いつも緊張しています。ぼくは、いつでも安全にフェリーに乗れる方法について、以前調べたフェリー乗り場に行って、もう一度お話を伺ってきました。

船には緊急時に備えて様々な物が積まれているそうです。

1つ目は、救命いかだです。

2つ目は、救命どう衣です。

3つ目は、**消火器**です。

4つ目は、**照明器具**です。

以前、フェリーに乗ったとき壁に**救命どう衣**の付け方の説明が掲示されていたのを思い出しました。

また、外にいる人が危ないそうです。理由は、**新しいばいきん**や**テロ**の問題があるからだそうです。そのことに備えては、

1つ目は、**緊急時の通報**です。

2つ目は、**消毒液**です。

等の用意がしてあるのだそうです。

船の中は密室なので、様々な場合に備えて準備や用意がなされているのだと感じました。

そして、何かあったとき、船を動かしている係の人の話をよく聞き、あわてないで冷静に行動することが必要だと感じました。

4 感想

まず、難しかったことです。実際にその場所に行ったりすることがです。ぼくとお母さんの都合が合わず、いく日が決まらずに終わるかと思いました。夏休みのうちにやっていたらよかったと思いました。調べに行けた時は気持ちよかったです。やっぱりフェリーは気持ちよかったですからです。大島もきれいでした。

あとはびっくりしたことです。でっかい船なのに4人で動かしているなんて、あまりにも少なすぎると思いました。それは、震災のせいだと思いました。なぜなら、震災前に乗った時は8人くらい、いたと思います。しかし、震災があってから働く人が減ったのだと思います。だけど乗る人は増えたと思います。わけは①復興するために乗る人が増えたと思います。②カモメにえさをあげられて楽しいので乗る人は減らないと思います。

カモメがいる海は豊かな海と考えます。大島には木があるから豊かな海になると思います。ということで豊かな海です。

今回この調べ活動をするにあたり、気仙沼のフェリー乗りばの方々に大変お世話になりました。